WORK

問>>ワーク
☎06-6746-2859
☎048-688-7555
☎052-777-4512
https://work-wheels.co.jp



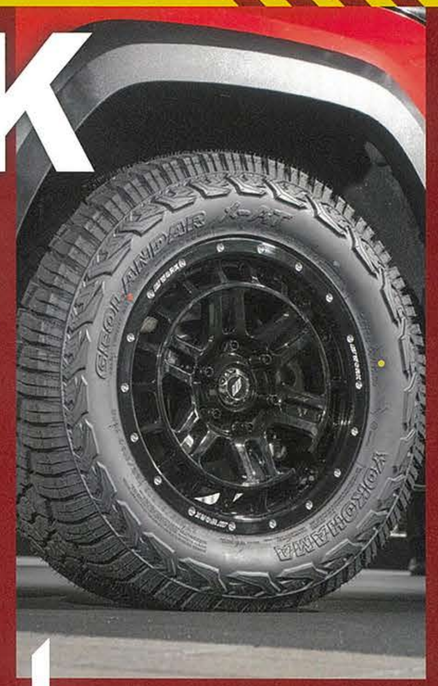
ネーミングにもなっているマシニングカット（MC）が特徴で、ピアスボルト風の切削、立体的なWORKロゴなど、鍛造らしさを発揮。リムフランジのラウンド形状も美しい。



6本ツインスポークはセンターに向けて、大きく落ち込むコンケーブデザインを採用。18インチ以上のサイズに魅せる。立体的なディスクは、まるで別体パーツのようだ。



スポーク間の開口部を大きく取ることで、細かい石詰まりを防ぎ、砂の排出性にも優れている。ブレーキとのクリアランスも十分あるので、ブレーキカスタムも問題ナシ！



CRAG
T-GRABICⅡ MC+
PROTO TYPE
クラッグ・ティーグラビックツー エムシープラス プロトタイプ
■サイズ:18×8.5J
■カラー:ブラックピアスマシニング
■構造:鍛造1ピース

アジアクロスカントリーラリーで優勝したトライトンの足元にも履いていたのだ！





アジアクロスカントリーラリーを制したトライトンに装着していたのは、市販モデルのクラッグ・ティーグラビックⅡMC+の17インチだが、インセットはスペシャル仕様。コレがキッカケで新型パジェロにも履くことに。

PAJERO

PHOTO／土屋勇人





ラリーコンセプトパジェロには、フロント＆リアアンダーガーニッシュ、フロントアンダーカバー、フロントグリル、シュノーケル、フロント＆リアオーバーフェンダー、Cピラーガーニッシュを装着。タイヤはジオランダーX-AT（285/60R18）をセット。

アフデSUV

話題の新型パジェロのラリーアート仕様モデルが履いている鍛造ホイールに視線集中！

2019年に生産を終了し、今年12月に7年ぶりに復活するパジェロ。10月1日の予約開始から2週間で4000台もの予約があったというから、期待度はかなりのものだ。

パジェロといえば三菱ワークスのラリーアートの存在は欠かせない。1997年に篠塚建次郎選手が日本人初のパリダカ（現在はダカールラリー）総合優勝を果たし、今年はトライトンでアジアクロスカントリーラリーを日本人コンビで制覇している。

先日行われた新型パジェロのワールドプレミアでは「ラリーコンセプト」として、ラリーアート・パジェロを展示。その足元を見ると、な、なんと！ワークの人気ホイール「クラッグ・ティーグラビックⅡ MC+」を履いてるではないか!! 気になったので、そばにいたラリーアートの関係者に聞いたところ、「今年のアジアクロスカントリーラリーを制覇したトライトンにこのホイールを履かせていたんです。軽量で頑丈だし、レース中のトラブルも一切なかったので、新型パジェロにも履かせたのは必然ですね」と。

しかも市販モデルには存在しない18インチの鍛造製！ コンセプトやデザインに関しては市販モデルを踏襲。ピアスボルトを切削でビードロック調に見せ、強度と剛性に優れたラウンドリムフランジ形状と併せて立体感を演出。6本のツインスポークはセンターに向かって落とし込むディープコンケーブデザインとしている。クロカンホイールの機能性はそのままに、デザイン性も重視した唯一無二の存在だ。

履いていたのは開発中のプロトタイプだったが、新型パジェロの販売開始と同時にSUV用モデルとして市販化されることを切に願います！